

編集後記

編集長 東野 定律

平成時代も残りわずかとなり、テレビも新聞も、平成の30年間を回顧する特集が組まれて報道されています。

平成という時代を振り返ると日本と世界にはさまざまな出来事が起き、時代の大転換期にあったと言えるのではないでしょうか。天安門事件、ドイツベルリンの壁の崩壊、米ソ冷戦の終結、湾岸・イラク戦争、リーマンショックによる世界的な経済不況など、日本では不動産をはじめとするバブル経済の崩壊を皮切りに、消費税の導入、郵政民営化、阪神淡路大震災、東日本大震災など大きな事件はもとより、天災や災害などによって歴史を変える出来事が次々に起こった時代だとも言えます。

そのような中、本学部の平成最後となる卒業生も3月19日に学位記授与式が行われ、本学部からも本年度は111名の卒業生が新たな門出に向かって、一步を踏み出すことになりました。これからの時代は、個人の生き方が尊重され、多様性にあふれた人間がそれぞれの価値観の元に生きていく時代になることが明確で、社会の変化が急速に進み、いろいろな情報に溢れ、その中で自分を信じて自分らしい人生を切り開いていくことがとても重要になるのではないかと思います。

年々、多くの社会変化に対応すべく、データを読み解く能力を身につけ、新たな手法や考え方で解決する人材を育成する必要性がますます高くなっているといえます。

そのような中、本年度をもって、大平 純彦准教授が定年退職されましたが、先生には、まだまだ教えて頂きたいこと、学びたいことが沢山あるような気がしてなりません。今後とも長年の経験から得られた様々な解決策や見識についてご指導ご鞭撻いただけることを切に願っております。